Citizens Net for Habitat Fukuoka
ハビタット福岡市民の会

市民の会通信　第６号
2001 年 4 月 10 日発行
ハビタット市民の会

ハビタット事務局長
アンナ・カジュムロ・ティバイジュカさんからメッセージをいただきました。

ニュースレター第６号　目次

●ハビタット事務局長からのメッセージ　1
●市民フォーラム
「家族で学ぶ国連とハビタット」を開催　2
●新しい刊行物が発刊　3
●ハビタット評価委員会が発足　4
●世界ハビタットデー記念シンポジウム　5
●行事報告・お知らせ　6

ナイロビよりハビタット福岡市民の会の皆さんにご挨拶したいと思います。

私は2000年9月に国連事務総長コフィ･アナン氏より国連人間居住センター（ハビタット）の事務局長に任命されました。この新しい世紀に、私たちが直面する難題のひとつである、世界の都市化に取り組む国連機関の舵取り役となることをとても嬉しく思います。

市民の会の皆さんがボランティアでこの問題について私と一緒に取り組んでくださるということを聞いて驚きとうれしさでいっぱいになりました。皆さんが福岡事務所をサポートしてくださることを誇りに思います。日本に住むより多くの方が、ハビタットの活動を知り、いかにハビタットが世界の人々の居住環境改善に貢献しているかを理解することは重要なことです。皆さんの取組みが、市民によるハビタット支援活動の発端となり、他の都市にも広がることを期待しています。都市化が急速に進むアジアでの、人々や環境に影響する問題をハビタットと日本の人々が共に取り組んでいく上で、市民の会のサポートが大きな力となるでしょう。

福岡を訪れ、市民の会の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

アンナ・カジュムロ・ティバイジュカさんプロフィール
出身地：タンザニア
スウェーデン農業科大学で博士号を取得（農業経済学）
1993 年　ダルエスサラーム大学経済学準教授
1995～1996 年　タンザニア政府代表団の一員として国連人間居住会議、世界食糧サミット、第 4 回世界女性会議、社会開発世界サミット等に参加
1997年　ユネスコ国際科学諮問委員会委員
1998年　国連貿易開発会議（UNCTAD）特別コーディネーター（後発開発途上国、内陸国、小島嶼国担当）
2000 年　国連人間居住センター事務局長就任
2001 年　第 3 回国連後発開発途上国会議事務総長

-MEETING-

市民の会の定例会を毎月１回行っています。
今後の定例会は
４月１９日（木）
５月１７日（木）（予定）です。
(19:00～21:00)

事前に市民の会ホームページ
http://www.fukuoka.unchs.org
または、お電話 092-724-7121
でご確認ください。

市民フォーラム”家族で学ぶ国連とハビタット”を開催

１０月１日に市民の会主催で世界ハビタット・デー2000 福岡のイベントの一環として、市民フォーラム”家族で学ぶ国連とハビタット”を開催しました.　今回は、ハビタットの活動に関するクイズ等を通して気づきや発見を促す参加型のプログラムを企画しました。

開会にあたって、稗田慶子副知事とハビタット名誉賞受賞者、フィリピンのサンフェルナド市のオルテガ市長よりメッセージを頂いた後、所長代行のディサ・ウィラパーナさんより、ハビタットの役割を説明してもらいました。

最初、各グループごとに生活するのに必要なものは何か、について話し合い、同じ様な言葉をグループ化してこの言葉を花や実に見立ててハビタットツリーの作成しました。様々な意見がでたものの、基本的に「コミュニティ」が必要だという事、ハビタットはコミュニティづくりの支援や人間居住の環境の改善を推進している事などを話しあいました。

次にクイズ形式でハビタットプロジェクトで生活がどう変わったかを学びました.最初の質問はハビタットのロゴマークは何を意味するかというクイズでした。人、すまい、世界を表すという答えで、全員正解でした。ミャンマーのクイズは、現地で使われている竹製のトイレの浄化槽の模型を見せ、何なのかを当ててもらいました。イランについては、テヘランのゴミ埋め立て施設のスライドによる出題でした。ゴミ埋め立ての技術（福岡方式）が、ハビタットを通してテヘランに移転された例です。カンボジアについては人口に関するクイズを通して、内戦が人々の生活や心に与えた影響や、心の平和がなければ人間居住環境の整備は難しいことなどを話しました。

イベント参加者の評価は高かったものの、広報が足りずに参加者が少なかった事は企画者として残念でした。会場で、市民の会が翻訳、編集した冊子“世界の都市化問題　－わたしたちとまちづくり－”を配布しました。今後、市民の会では県内の小中学校へ出張授業を予定、これを教材として使います。これを機に沢山の出張授業の依頼があれば、と私達は願っています。

市民の会　因　利嘉子

世界ハビタット・デー2000福岡　記念シンポジウム
「Women in Urban Governance ～まちづくりと女性の参画～」を開催

10月1日（日）に行われたシンポジウムでは、芦屋市長北村春江氏を基調講演者としてお招きしました。北村氏は日本で初めての女性市長として注目されたほか、阪神・淡路大震災を在任中に経験し、都市基盤整備復興に尽力されています。

基調講演では、地方自治行政における女性職員の割合は他の職種に比べて高い一方で、管理職は非常に少ないことが指摘されたほか、地方分権、男女共同参画社会の条件整備が進む一方、直接行政に参加している女性だけでなく、それ以外の女性も「自分たちのまちを自分たちの手でつくっていく」という意識を持つことの重要性を強調されました。

パネリストには坂本雅子福岡市助役、メアリー・ジェーン・C・オルテガ・サンフェルナンド市長（フィリピン）、山崎佳代子福間町町議会議員、吉松須和子グローカルプランニング代表の各氏を招き、パネルディスカッション・コーディネーターを野口郁子アミカス館長にお願いしました。オルテガ市長はハビタット名誉賞受賞者に選ばれたため、　ハビタット・デーの世界イベントが開催されたキングストン（ジャマイカ）に招待されていましたが、福岡でのシンポジウムを優先され、急遽福岡においてディサ・ウィラパーナ福岡事務所長代行より授賞式を行いました。オルテガ氏はパネル・ディスカッションにおいて、女性として政治に参加するためにさまざまな困難を乗り越えてきた過程をお話しされました。

ハビタット福岡事務所　岩井昌也

●「アジア地域の廃棄物問題を考えるＮＧＯの集い」に参加！！

10月11日～13日の会期で、アジア太平洋廃棄物埋立会議「APLAS　FUKUOKA2000（Asia pacific landfill Symposium in Fukuoka 2000）」が、福岡市のあいれふで開催されました。この会期中の10月12日には、同じくあいれふで「アジア地域の廃棄物問題を考えるNGOの集い」が開催され、ハビタット福岡市民の会も展示並びにカントリーレポートの発表者の一員として参加しました。このNGOの集いは、福岡のGroup530研究会（グループゴミゼロ：代表　松藤康司福岡大学教授）が主催した企画で、地球環境基金の支援により実現しました。

アジア地域は、急激な人口増加と都市化により、さまざまな環境問題が起こっています。ゴミ問題を解決するにあたっても、こうした地域の専門家や市民のネットワークを築くことで、お互いに学びあうことが重要です。先進国の先進的な環境技術を移転するだけでなく、開発途上国が先進国の失敗を追随しないよう、環境教育や市民レベルの取組みについても共有していこうということで、フィリピン、ネパールからの発表者と日本の3名の発表者で計５名の発表がありました。

▲報告に立つ松田美幸代表

ハビタット福岡市民の会からは、ハビタットの活動を市民に紹介する中で、アジア太平洋地域のゴミ問題の実態や、ハビタットが関与した技術移転の事例などについて、一般の方々にお伝えする役割を担っているという報告をしました。今回のようなNGOの集いや、専門家の集まりには、なかなか一般市民やこどもたちは参加する機会がありません。しかし、そういう人々こそ、ゴミの問題の実態をもっと理解し、身近なところで行動できるようにならないと、ゴミ問題の解決は難しいのです。ハビタット福岡市民の会は、ハビタットの活動テーマである、居住環境の改善や、都市化問題の改善という視点から、アジア太平洋地域のゴミや環境問題の実態を広く市民の方々に伝える活動を進めていきたいとお話しました。

行事報告 ・ おしらせ

国連各機関の親善大使がせいぞろい

左から国連人間居住センター（ハビタット）親善大使のマリ・クリスティーヌさん、国連開発計画（UNDP）親善大使の紺野美紗子さん、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさん、アナン国連事務総長、国連児童基金（UNICEF）の親善大使の黒柳徹子さん、国連環境計画（UNEP）の親善大使の加藤登紀子さん。

因利嘉子さん、ありがとうございました。ー仕事で台北へ

市民の会発足以来、事務局長として会の運営に尽力された因利嘉子さんがこのほど台北へお仕事の関係で転出されました。大変にありがとうございました。２月１９日に有志で激励会を開催いたしました。

ハビタット福岡市民の会事務局

〒810－0001
福岡市中央区天神1－1－1
アクロス福岡8F
国連人間居住センター福岡事務所内

電話:092(724)7121／23
FAX:092(724)7124
Email:cnhf@gol.com

ホームページもご覧ください
http://www.fukuoka.unchs.org

ホームページでは定例会・勉強会の報告や運営委員会の議事録も掲載しています。ゲストブックにメッセージをお送りください。

〈入会のお申し込み〉

気軽に勉強会や定例会へご参加ください。福岡県外の方も大歓迎です。入会希望の方はお名前とニューズレターの送付先をハガキ、FAX、Emailでお知らせの上、年会費1,000円をお近くの郵便局でお振り込みください。

口座:ハビタット福岡市民の会
01730－0－78434

ハビタットスタディー・ツアーの企画・運営をする方募集中！

第２回目はネパールを予定。スタディー・ツアーに企画から携わってみませんか？
ツアー参加者も同時募集中。

とぴっくす

●アミカスの市民グループ海外調査・交流支援事業
　福岡女性センターアミカスでは、今年から、女性のグループを海外調査に派遣する事業を始めました。派遣国の選定から、調査内容まですべて自分たちで企画し、公募する方法でグループが選ばれました。その中で、ベトナムの女性問題を調査に行く志岐伸子さんと上村葉月さんが、ハビタット福岡事務所を訪問されました。ベトナムでの訪問先などのリサーチでは、人間居住アドバイザーの佐藤摩利子さんからアドバイスを受け、訪問前からネットワークづくりを積極的に進められました。１１月の現地を訪問しますので、帰国後は、ハビタット福岡市民の会のメンバーにも視察の報告をしてくださるそうです。

編集後記

　２１世紀第１号のニュースレターがようやく完成しました。今年はハビタット福岡にとっては重要な年だと思います。明年７月に開設５年目を迎えるわけですが、市民の中にはまだこのオフィスの存在を知らない人が大半。野田氏のいうように、市民に近い、地域融合型の国連機関へなっていくために市民の会の役割もさらに大きくなると思います。このニュースレターは、そのための有効なツール。次号のさらなる充実を期して、さらに勉強していきます。（安）

２つの刊行物が完成！

市民の会による冊子「世界の都市化問題」

冊子「世界の都市化問題」の作成にあたって

２１世紀に向けて、私たち人類が直面する最も重要な課題の１つは、開発途上国における都市人口の急激な増加です。開発途上国の都市では、住居、道路や鉄道、学校、病院などの設置やサービスが行き届いていないなど、様々な問題に直面しています。同時に、交通システムの複雑化、不安定な消費動向、衛生状態の悪化、環境汚染とゴミ問題などの都市型の問題が発生しています。

この冊子は、国連人間居住センター（ハビタット）が発行した『Basic Facts on Urbanization』を翻訳編集し、小学生から大人まで、多くの方々に読んでもらいたいと思い、とくに、学校などの教材として使える様に、グラフ等を多用し、見て解る様に心掛けました。

この冊子を通して、都市の生活環境の悪化という現状を理解していただき、今後の対策を皆さんと考えていきたいと思います。

●主な内容

第１章	人口統計にみる世界	（統計的な傾向・大都市の人口増加・都市経済）
第２章	都市が抱える問題	（貧困の都市化と女性化・ホームレス・都市における暴力・環境破壊・都市の子ども）
第３章	生活環境	（適切な住居とは・基本的なインフラへのアクセス）
第４章	都市の開発・管理	（持続できる都市開発・安全保持と都市管理に対する国際的な取り組み）

リーフレット「the right to smile」

ハビタットの沿革、理念、活動内容等を写真構成でコンパクトにまとめたリーフレット「the right to smile」がこのほど完成し、今、いろいろな場で配布され、ハビタットの理解を深めていただくのに役立っています。

タイトルの「the right to smile」は、発展途上国の居住環境改善によって、そこに住む人々の笑顔を取り戻したいという思いを込めてつけました。

このリーフレットをご覧いただき、世界の各地で懸命に生きている人々の生活を支援するハビタットの活動に理解を深めていただければ、これ以上の喜びはありません。

●内容

・ハビタットとは	（ハビタットアジェンダ・２つのグローバルキャンペーン）
・世界が抱える問題	（急速に増加する都市人口・住宅問題・都市の犯罪・環境問題・基本的なサービスの不足）
・ハビタット福岡の活動	（技術協力活動・研究開発活動・広報活動）

※この２つの刊行物はいずれも無料でお渡ししています。また、ハビタット・プロモーションビデオ（１５分）も貸し出ししています。興味のある方はハビタット福岡事務所までご連絡下さい。

電話番号０９２－７２４－７１２１

ハビタット福岡評価委員会が発足。地域融合の国連機関へ議論スタート

ハビタット福岡事務所では、地元住民の視点から客観的に活動内容を評価してもらい、地域との連携を図る「市民によるハビタット福岡事務所評価委員会」を設け、３月１９日と２３日の２回会合を開きました。このあと会合は４月３日、４月１０日の計４回行われ、ハビタット福岡事務所が地域と連携を築くための方策を盛り込んだ提言をまとめることになっています。なお評価委員会は下記の６名の皆さんによって構成されています。

委員長：緒方世喜子　福岡県教育委員長
委　員：阿佐部伸一　ＲＫＢ毎日放送報道部次長
大楠　正子　福岡雙葉学園海外交流委員長
岡　　道也　財団法人福岡都市科学研究所主幹研究員
藤田　一枝　明日のカンボジアを考える会・ハビタットNGOフォーラム世話人
吉田　　潔　株式会社アジアビジネスセンター取締役総合研究所長　（五十音順）

ー第１回評価委員会での野田順康氏（内閣府参事官・ハビタット福岡市民の会）の話（抜粋）ー

●ハビタット福岡事務所開設の２つの意義

１９９７年７月３０日付の西日本新聞紙上で、私はハビタット福岡開設の意義を２点述べた。１つは、この国連の事務所が東京や大阪ではなく、福岡に開設されたことにより、福岡がアジアの交流拠点として成長していく足掛かりになる。

２つめは、国際交流にはテーマが必要だ。ハビタット福岡設置によって「居住」「住まう」というアジアの共通のテーマを題材として議論を展開していくことができる。当時はハビタットの名前はあまり知られてはいなかったが、そういう観点からハビタットを育てていけば息の長い国際交流、国際協力が続いていくのではないかということを主張した。

そして、この文の最後に言いたかったのは「市民との関係を密接に」「地域ぐるみで育成を」ということ。自治体の人は誘致をするときは必死になる。以前私のところに多くの自治体が「我が地域に国際機関を誘致したい」と相談にきた。「どんな国際機関をもってきたいですか？」ときくと、そのアイデアがない。また地元自治体は誘致のときには情熱があったが誘致してしまうとその情熱があっという間にさめてしまう。

このようなことのないよう「地域融合型の国際機関」をぜひともつくっていってほしい。そのためにはハビタットも努力しなければいけない。普通は国際機関の人は他の国を見ている。地元を見ていない。地元と遊離しがちである。そうではなく地元と常に連携をとりながらやっていってほしい。地元でもハビタットをサポートしていくグループがぜひとも育っていってほしい、ということを私は心から願っていた。非常に幸福なことに松田さんを代表として「ハビタット福岡市民の会」という会ができて、私もいの一番に会員にならせていただいたけれども、地元自治体・市民と国際機関が融合しながら国際協力をやっていけるという、これは非常に画期的である。引き続き、そういう活動を続けていただききたい。

●過去３年間の評価と今後

これまで国際機関というのは東京圏・名古屋圏・大阪圏という三大都市圏にしかなかった。しかしハビタット福岡は地方圏にはじめての国際機関である。これは福岡のステータスを高めるのに役立っている。またハビタットが来ることによって国際会議も増えたし、ここ３年間でハビタット関係だけで４００名以上の外国人専門家が来た。これは海外からの訪問者の増加につながっている。また海外、特にアジアへの「福岡」の名前の浸透も着実に進んでいる。また子供たち、学生の国際意識の高揚にも大きな役割を果たしている。

ハビタット自体としては、ようやくプロジェクトに外務省のサポートが得られるようになった。これはハビタット福岡の努力の賜物である。国際会議も頻繁にできるようになって、今年には世界ハビタットデーの会議も福岡で開かれる。地元との融合の努力の結果として「市民の会」ができ、これは福岡だけに見られる紐帯である。

しかし、私は、地元自治体の情熱は低下しているという評価をしている。ここは本当になんとかしたいなと思っている。この面では残念ながら東京、横浜、神戸の自治体職員の対応とは差がある。
私は今、神戸に別の国際機関をつくっているが、神戸と福岡では対応が全然違う。東京、横浜、神戸は誘致のときだけでなくて、その後のメンテナンス、自治体と国連が一緒になって何かをしかけようというプロジェクトの企画などの努力がある。その意味で福岡は東京、横浜、神戸にもっと学んでほしい。

※評価委員会の議事録はハビタット市民の会のホームページでご覧になれます。